

厨房ダクト接続形

ガス給湯器 取扱説明書

保証書付

特定保守製品

型番	型式名
633-5001型	GS-160GE-1



このたびはガス給湯器をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この製品は『消費生活用製品安全法』で指定された

特定保守製品です。(→P.20)

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、十分に理解したうえで正しくお使いください。

この取扱説明書の裏表紙が保証書になっています。

内容をよくご確認ください。

この取扱説明書をいつでもご覧になれる身近なところへ大切に保管してください。

取扱説明書を紛失された場合は、お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。

その際、機器本体の銘板をご覧のうえ、型番・製造年月をお知らせください。

もくじ

ページ

安全に正しくお使いいただくために……………	1
この取扱説明書の表示について……………	1
絵表示について……………	1
機器本体の表示について……………	1
必ずお守りください……………	1
各部の名称とはたらき……………	7
機器本体……………	7
本体操作部……………	7
サブリモコン……………	8
防湿形サブリモコン……………	8
ご利用前の準備……………	9
機器の準備……………	9
現在時刻を合わせる……………	9

お使いいただく前に

お湯を使うには……………	10
お湯を使用する……………	10
給湯温度の目安……………	11
優先切替について……………	11
プログラム運転を使う……………	12
プログラム時刻の設定……………	12
プログラム運転をする……………	13
プログラム運転の解除……………	13
ロック機能……………	14
ロック機能の設定と解除……………	14
メインリモコンのその他の機能……………	15
ブザーの音量を変更する……………	15
省電力機能について……………	15

使い方

冬期の凍結予防をするには……………	16
凍結予防装置による方法……………	16
給湯栓の水を流す方法……………	16
機器の水を抜く方法……………	17
再使用するとき……………	18
凍結したときは……………	19
長期使用製品安全点検制度……………	20
点検のポイント・お手入れのしかた……………	22
点検のポイント……………	22
お手入れのしかた……………	22
定期点検のおすすめ(有料)……………	22
給気フィルターの掃除(こまめに掃除)……………	23
油受け皿の掃除(月1回程度)……………	24
給水口フィルターの掃除……………	24
点検・お手入れ後の確認……………	24
故障かな?と思ったら……………	25
こんなときは故障ではありません……………	26
アラーム表示について……………	27
アフターサービスについて……………	28
仕様一覧……………	29
保証書……………	裏表紙

長くお使いいただくために

■この取扱説明書の表示について

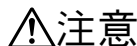
この取扱説明書では、機器を正しくお使いいただき万一の事故を未然に防ぐため、以下のような表示で注意を呼びかけています。



危険 この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告 この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



注意 この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

お願い

ご使用になるときに、よく理解していただきたい内容を示しています。

(→P.XX) 参照ページを示しています。

■絵表示について



高温注意



感電注意



一般的な禁止



火気禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止



必ず行う



アースを必ず
接続せよ



電源プラグ
を抜け

■機器本体の表示について



やけど注意

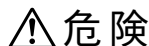
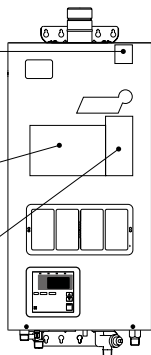
排気筒や周囲が高温になるため、やけど注意を表示しています。

使用上の注意

使用上の注意について表示しています。

銘板

型番・型式名・使用ガスの種類・製造年月・製造業者等を表示しています。



危険

ガス漏れに気づいたときは

- ①すぐに使用をやめて、給湯栓を全て閉じる。
- ②ガス栓を閉じる。また、メーターのガス栓も閉じる。
- ③窓や戸を開け、ガスを外へ出す。
- ④お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスに連絡する。



排気ダクトとの接続部の外れに注意

- 排気ダクトとの接続部の外れや損傷、穴あき、詰まりに気づいたときはすぐに使用をやめ、お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへ連絡する。そのまま使用すると、排気が室内へ漏れて、一酸化炭素中毒の原因となります。



すべての処置が終わるまでの間、絶対に

- ・火をつけない
 - ・電気器具のスイッチの入・切をしない
 - ・電源プラグの抜き差しをしない
 - ・周辺の電話を使用しない
- 炎や火花で引火し、火災のおそれがあります。



本体の給気フィルターのつまり

- 本体の給気フィルターにゴミなどが詰まっていないか確認する。詰まっていると不完全燃焼の原因になります。

排気フード部および排気筒の定期点検

- 排気フード部の変形・破損・詰まりなどがないか定期点検をする。また排気筒の破損・外れ、ススなどのつまりがないか定期点検する。排気ガスが室内に漏れて、一酸化炭素中毒の原因となり危険です。

換気注意

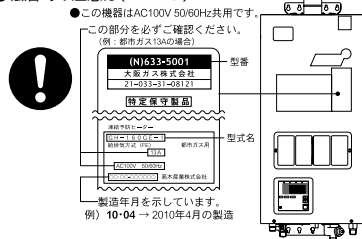
- 換気口・給気口は常に確保し、物などでふさがらない。不完全燃焼の原因となります。
- 使用中は、お部屋の換気口(給気口・排気口・小窓など)は常に開けて、物などでふさがらない。一酸化炭素中毒の原因となります。



警告

機器の銘板を確認

- 機器の銘板に表示してあるガス種(ガスグループ)および電源(電圧、周波数)で機器を使用する。ガス種および電源が一致しないと不完全燃焼による一酸化炭素中毒になったり、爆発着火でやけどしたり、機器が故障する場合があります。
- 転居時の注意は(→P.28)

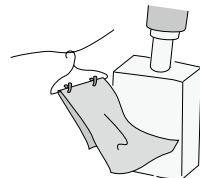


機器の設置および付帯工事

- 機器の設置・移動および付帯工事は、お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスに依頼し、安全な位置に正しく設置する。設置工事に不備があると事故の原因となります。

給気フィルター・排気フードの付近に物を置いたり洗濯物で覆わない

- 不完全燃焼による一酸化炭素中毒や火災のおそれがあります。



必ずお守りください

警告

屋外に設置しない

- 風により炎が機器の外にあふれて火災のおそれがあります。また、雨水の浸入などで、故障の原因になります。
- この機器は排気ダクト接続形ですので、機器の排気トップ部分が排気ダクトに接続されていることを確認する。排気ダクトに接続せず、排気筒を使用して屋外に排気するような設置にすると、排気が室内に逆流し大変危険です。
- 機器1台につき、140m³/hの必要排気量が確保できる排気ダクトに接続してください。

ガス接続について

- この機器のガス管の接続はねじ接続です。ガス配管接続工事には専門の資格・技術が必要です。機器の設置・移動・取外しの際には必ずお買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご相談ください。

機器本体やガスの接続部などに乗らない

- けがや機器の変形によるガス漏れ、不完全燃焼のおそれがあります。

お子様には十分な注意を

- 浴槽の湯(水)に潜ったり浴室で遊ばせない。思わぬ事故につながる可能性があります。特に小さなお子様のいるご家庭では注意してください。



改造・分解禁止

- 絶対に改造・分解は行わない。改造・分解は思わぬ事故や故障・火災の原因となります。

アース必要

- この機器は接地工事(アース)が必要なので、アースがされているか確認する。

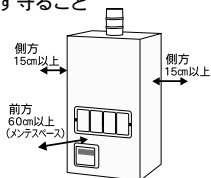
機器本体でのやけどに注意

- 機器使用中または使用後しばらくは、排気ダクトとの接続部、またその周辺部には手を触れないでください。高温になっていますのでやけどのおそれがあります。



火災予防のために必ず守ること

- 機器周囲のものとは常に図の離隔距離を確保する。
側方 15cm以上
前方 60cm以上 (メンテナンス)
- 機器および排気口の周辺には紙や木材・洗濯物などの燃えやすいものを置かない。火災の原因となります。
- 機器の周辺では灯油・ガソリン・ベンジンなどの引火性危険物を使用しない。火災の原因となります。
- 機器の周辺や上にスプレー缶・カセットコンロ用ポンペを置いたり使用したりしない。熱で缶・ポンペの圧力が上がり爆発のおそれがあります。
- 機器の周囲に、コンロなど他の燃焼機器がある場合は、火災の原因となりますので、間に仕切り板(不燃材)を設けるなど防火措置を行う。



電源コードの加工禁止

- 電源コードを切断して延長はしない。電源コードがコンセントに届く範囲としてください。感電や火災の原因となります。

許容電力以上の使用禁止

- コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因となります。

電源プラグのほりこりなどは定期的に取り

- ほりこりがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

必ずお守りください

警告

異常時の処置について

- 地震・火災などの緊急時の場合は以下の手順に従う。
① 給湯栓を閉じる。
② 運転スイッチを「切」にする。
③ ガス栓・給水元栓を閉じる。



- 給湯栓を開けても点火しない場合や使用中で火が消える場合、または使用中に異常な燃焼や臭気・異常音・異常な温度を感じた場合。
① ただちに使用を中止してガス栓を閉じる。
② 「故障かな?と思ったら」(→P.25~27)に従って処置をする。
上記の処置をしても直らない場合は、使用を中止してお買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへ連絡する。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

- ぬれた手で電源プラグを触らない。感電のおそれがあります。



注意

用途について

- 台所・シャワー・洗面・浴槽へのお湯張りなど給湯以外の用途には使用しない。思わぬ事故につながる可能性があります。
- 車両・船舶への搭載はしない。振動により機器が破損し、火災や機器故障の原因となります。

ソーラー機器について

- ソーラー機器とは絶対に接続しない。夏期にソーラーの水温が高くなるとお湯の温度制御ができなくなり、高温のお湯がそのまま出ます。やけどをしたり機器の故障原因となります。

給湯・シャワー使用時のご注意

- シャワーなどお湯を使う場合は、リモコンの表示温度をよく確かめ、手のひらで温度を確認して湯温が安定してから使用する。次のようなときは注意してください。
・お湯を再使用する時
・給水圧が下がったとき
・お湯の量を急に少なくしたとき
・機器が故障したとき
- 入浴するときは、手でお湯の温度を確認する。
- 給湯使用時は出湯管(蛇口)に触らない。
- シャワー・給湯使用中に、使用者以外がお湯の温度を変更したり、運転スイッチを「切」にしない。



排気ファン停止中は使用しない

- 排気ダクトの排気ファンが停止しているときには使用しないでください。排気が室内に逆流し、一酸化炭素中毒の原因となります。

電源プラグは確実に差し込む

- 電源プラグは根元まで完全に差し込む。差し込みが不完全な場合、感電・発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ、緩んだコンセントは使わないでください。

凍結による水漏れに気づいたときは

- 速やかに給水元栓を閉じ、機器の使用を中止する。床や壁などを濡らして生じる損害は、お客さまの責任となります。

ドレン排水口から排出される水について

- ドレン排水配管から排出される水を飲料用・飼育用などに使用したり、触ったりしない。ドレン水に触ってしまった場合は、念のため水道水で洗い流してください。

電源プラグを抜くときの注意

- コンセントから電源プラグを抜くときは、プラグを持って抜く。コードを引っ張ると内部で断線して発熱や火災の原因となります。

お願い

市販の補助用具について

- 事故防止のため、この機器の純正部品以外は使用しないでください。
- 水圧の低い地域では泡沫水栓を使用しないでください。
- 市販品の湯冷め防止器などは使用しないでください。
- やけど対策上、サーモスタット付混合水栓の使用をおすすめします。
- 混合水栓にはさまざまな種類があります。使用方法は、混合水栓の取扱説明書をご覧ください。

飲用(調理用)にお使いのときは

- 機器内に長時間たまった水(たとえば朝一番の使い始めのぬるい湯が出るまで)は、飲用(調理用)には使用しないで、雑用水としてお使いください。



断水のと き

- 給湯栓を閉じ、リモコンの運転スイッチを「切」にしてください。
- 断水から復帰後、使い始めのお湯は飲用や調理用などに使用しないでください。飲用や調理用に適さない水が、給湯配管内にとどまることがあります。

本体操作部やリモコンの扱いについて

- 本体操作部、サブリモコンには水をかけたり、炊飯器・電気ポットなどの蒸気を当てないでください。防湿形サブリモコンは防水タイプですが故意に水をかけないでください。故障の原因になります。
- 本体操作部やリモコンはお子様がいらずしないよう注意してください。



停電時または電源プラグを抜いたとき

- この機器は、停電時や電源プラグを抜いたときは使用できません。停電時は給湯栓を閉じてください。
- 再通電したときは、リモコンの再設定(給湯温度・現在時刻など)を行い、表示を確認したあとご使用ください。

通水使用の禁止

- リモコンの運転スイッチを「切」にした状態で、給湯栓を開けて水を出したり、シャワーを浴びないでください。機器内通水部分の結露により、機器の寿命を短くする原因になる場合があります。(冬期の凍結予防を除く)



電源プラグを抜かない

- お手入れや水抜き(凍結予防・長期不在時)を行うとき、または突発的な自然災害(雷等)以外は電源プラグを抜かないでください。

雷が発生しているときの注意

- 雷が鳴り始めたら速やかに運転を停止し、感電に注意して電源プラグをコンセントから抜いてください。雷による一時的な過電流で電子部品を損傷することがあります。



雷が鳴ったあとと機器が作動しないとき

- 落雷の際に、機器内の漏電リレーが作動したことが考えられます。この場合は電源プラグを一度コンセントから抜き、再度差し込んでください。それでも使用できないときはお買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。

凍結についての注意

- 凍結のおそれがあるときは、「冬期の凍結予防をするには」(→P.16～19)に従って処置をしてください。怠ると機器内の水が凍って機器が破損することがあります。
- 凍結により機器が破損した場合の修理費は、保証期間内でも有料となります。
- 凍結したままでは絶対に使用しないでください。
- 凍結したときは「凍結したときは」(→P.19)に従って処置をしてください。

スプレー使用注意

- 機器の近くでヘアースプレー等のシリコン系スプレーを使わないでください。故障の原因になります。

お願い

日常の点検・お手入れ

- 安全にお使いいただくために、点検・お手入れは月1回程度必ず行ってください。(→P.22)
- 故障または破損したと思われるときは使用しないでください。このときご家庭で修理せず、お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。
- 浴槽や洗面台が、水中の微量の銅イオンと脂肪分(湯アカ)により青く着色することがあります。日々、浴槽や洗面台のお手入れをするとともに、万一着色した場合はクレンザーやアンモニア水(10%程度)等でふき取ってください。
- ドレン排水配管の先からスムーズに排水されるか点検してください。また、ゴミ等によって閉そくされている場合は、掃除を行ってください。また、この機器は熱効率が高いため、排水量が多くなっています。

乾電池に関する注意

- 機器を取り替えた場合、旧機器は専門の業者に処理を依頼してください。もし、お客様で旧機器の処理をされる場合、乾電池を使用している機器は乾電池を取り外してから正規の処理をしてください。

ガス事故防止のために

- 使用時の点火、使用後の消火のほか、使用中も正常に燃焼していることをリモコンの燃焼表示で確認してください。

長期間使用しないときは

- 「機器の水を抜く方法」(→P.17)に従って、水抜きを行ってください。水が長いあいだ流れないと、一瞬濁ったお湯が出たり、冬期に凍結する場合があります。



お願い 設置する場所や状況について

特監法対象機器

- この機器は、法的資格を有する者以外は設置または移設できません。また、機器に下のようなシールが貼付してあるか確認してください。シールが張られていない場合はお買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスにお問い合わせください。

特定方式消費機器の設置工事の監理に 関する法律第9条の規定による表示	
工事業者の氏名	TEL
監督者の氏名	
資格者の番号	
施工内容及び 年月日	年 月 日

塩ビ管の使用について

- 給湯配管に塩ビ管を使わないでください。機器の使用直後に熱交換器の後沸きにより塩ビ管が破裂し、熱湯がふき出したり、多量の水漏れの原因になります。(ただし、ドレン排水配管は除きます)

油煙・ほこり

- 砂・油煙・ペットの毛など、ほこりのたちやすい場所には設置しないでください。ほこりが給気口をふさいで、燃焼ファンの性能を低下させ、不完全燃焼の原因となりますので、給気フィルターのお手入れはこまめに行ってください。

給気について

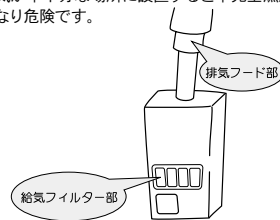
- 給気フィルター部や排気フード部給気口は、物などでふさがないようにください。また、給気が十分できる場所に設置してください。給気が不十分な場所に設置すると不完全燃焼の原因となり危険です。

機器の設置の確認

- この機器は高効率型給湯器のため、燃焼中に酸性のドレン水が発生します。ドレン水は機器内の中和器で中和され、ドレン排水口より排水されます。ドレン排水口から排水配管がされているか確認してください。

井戸水、地下水、温泉水使用時の注意

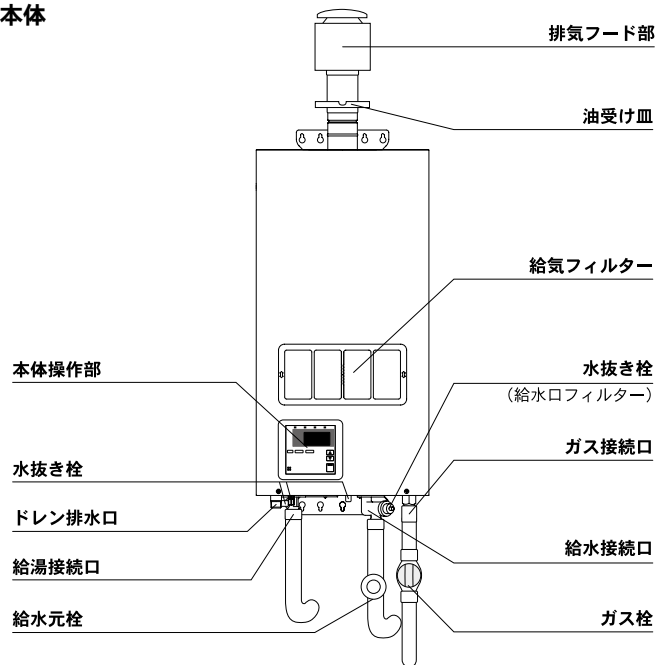
- この機器は上水道用です。水質によっては、機器内の配管内部に異物が付着したり、配管に穴が開くなど耐久性を損なう場合や、機器が正しく作動しないことがあります。この場合、保証期間内でも有料修理となります。



各部の名称とはたらき

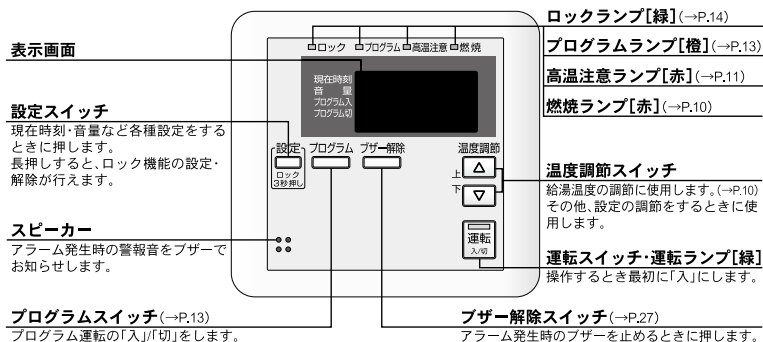
この機器の各部の名称とはたらきを
ご紹介します。

■機器本体



■本体操作部 638-1034型

給湯温度の調節やプログラム運転などの操作ができます。



各部の名称とはたらき

□本体操作部表示画面

※図の画面表示は説明用で、実際の運転状態を示すものではありません。

現在時刻表示 (→P.9)

現在時刻を表示します。

音量表示 (→P.15)

プザーの音量設定時に1桁で音量を表示します。

プログラム時刻表示 (→P.12)

プログラム運転設定時にプログラム「入」/「切」時刻を表示します。



アラーム表示 (→P.27)

機器に不具合が生じたとき、3桁でアラームを表示します。

給湯温度表示 (→P.10)

給湯温度を℃で表示します。

優先表示 (→P.11)

本体操作部が優先のとき表示します。

■サブリモコン 638-1035型(別売品)

給湯温度の調節やアラーム発生時のプザーの停止ができます。

優先ランプ[緑] (→P.11)

燃焼ランプ[赤] (→P.10)

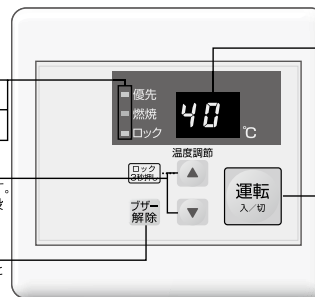
ロックランプ[緑] (→P.14)

温度調節スイッチ

給湯温度を調節するときに押します。
▲を長押しすると、ロック機能の設定・解除が行えます。

プザー解除スイッチ (→P.27)

アラーム発生時のプザーを止めるときに押します。
また、3秒以上長押しするとプザーを鳴らなくする設定もできます。



給湯温度表示 (→P.10)

運転スイッチ「入」のとき、給湯温度を表示します。

アラーム表示 (→P.27)

機器に不具合が生じたとき、2桁でアラームを表示します。

運転スイッチ

操作するとき最初に押して「入」にします。

■防湿形サブリモコン 638-1036型(別売品)

給湯温度の調節や優先の切替えができます。防湿タイプなので、浴室や水回りなどに設置することができます。

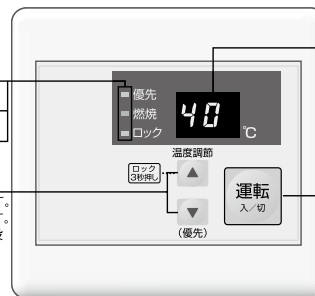
優先ランプ[緑] (→P.11)

燃焼ランプ[赤] (→P.10)

ロックランプ[緑] (→P.14)

温度調節スイッチ

給湯温度を調節するときに押します。
▼を押すと優先の切替えができます。
▲を長押しすると、ロック機能の設定・解除が行えます。



給湯温度表示 (→P.10)

運転スイッチ「入」のとき、給湯温度を表示します。

アラーム表示 (→P.27)

機器に不具合が生じたとき、2桁でアラームを表示します。

運転スイッチ

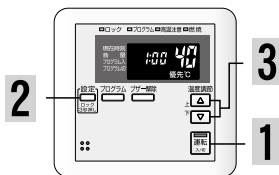
操作するとき最初に押して「入」にします。

ご利用前の準備

はじめてお使いになるときは、まず
屋内にある機器の準備をします。

■機器の準備

- 1 機器や機器周辺の点検・確認を行います
■点検のポイント(→P.19)をご覧ください。
- 2 給水元栓を全開にします
機器の下部にあります。
- 3 給湯栓を開けます
水が出ることを確認したら、閉じます。
- 4 ガス栓を全開にします
機器の下部にあります。
- 5 電源プラグをコンセントに差し込みます
機器周辺にあります。



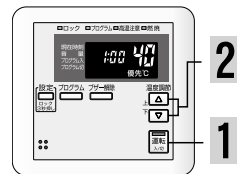
■現在時刻を合わせる

本体操作部の現在時刻を合わせます。

操作	操作後の画面	説明
1 を押して「入」にします		
2 現在時刻の右に が表示するまで を押します		現在時刻が点滅します。
3 または を押して現在時刻を設定します 現在時刻設定後、しばらく押し操作がないと確定します		※現在時刻点滅中に を押すと、音量の設定に移ります。(→P.15) 【例】午後1:00に設定

- ※** ●現在時刻は24時間制(例:午後1:00→13:00)で表示されます。
●出荷時の時刻表示は「1:00」になっています。停電または電源プラグを抜いた状態が30分以上続いた場合には、出荷時の表示に戻りますので、通電後時刻の再設定を行ってください。

お湯を使うには



■お湯を使用する

リモコンの運転スイッチを「入」にして、給湯栓を開けるだけの簡単な操作でお湯が使えます。

操作	操作後の画面	説明
1 の点灯を確認します 給湯温度を確認します		●運転ランプが点灯していないときは、 を押します。 ●サブリモコン・防湿形サブリモコンの場合は、給湯温度が表示していないときは、 を押します。
2 給湯温度を変更する場合は の点灯を確認して または を押します		●温度変更ができない場合は 優先 の表示(サブリモコン・防湿形サブリモコンの場合は優先ランプの点灯)を確認します。(→P.11)
3 給湯栓を開けます 		●リモコンの燃焼ランプが点灯します。
4 給湯栓を閉じます 		●燃焼ランプが消灯します。 ※他の給湯栓が使用中のときは消えません。

警告 ●給湯・シャワーを使うときは給湯温度を確認し、手で温度を確かめてから使う。確認を怠るとやけどのおそれがあります。

●排気ダクトの排気ファンが運転(回転)していることを確認し、排気ファンが停止しているときは使用しないでください。排気が室内に逆流し、一酸化炭素中毒の原因になります。

●ご注意ください

- 給湯栓を閉じても機器の燃焼ファンがしばらく回転しますが、故障ではありません。
- 従来の給湯器に比べて熱効率が高いため、排気口から白煙が出やすくなっています。これは水蒸気であり、機器の故障ではありません。
- 使い始めは給湯配管の水が流れ出るまでしばらくお湯が出ません。(配管の長さによりお湯が出るまでの時間が異なります)
- 水温が30°C近くなる夏期では、低温に設定しても給湯栓の湯量が少ないと給湯温度が高くなります。この場合は給湯栓をさらに開けて湯量を増やすか、水と混合してお使いください。
- 給湯栓をしぼり過ぎると、熱いお湯が出たり、水になることがあります。

お使いいただく前に

使い方

お湯を使うには

■給湯温度の目安

給湯温度は、標準設定または高温設定のどちらかに設定できます。設定は、設置工事時に行いますので、給湯温度設定の内容は施工業者に確認してください。

ご使用の目安		工場出荷時 ⁴² (単位:°C)																					
標準設定	37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47	50	55	60	—	70	75	—															
高温設定	37 38 39 40 41 42 43 44 45	—	50	55	60	65	70	75	80														
使用用途	食器洗いなど	シャワー・給湯など	給湯など	高温																			

□高温注意ランプについて

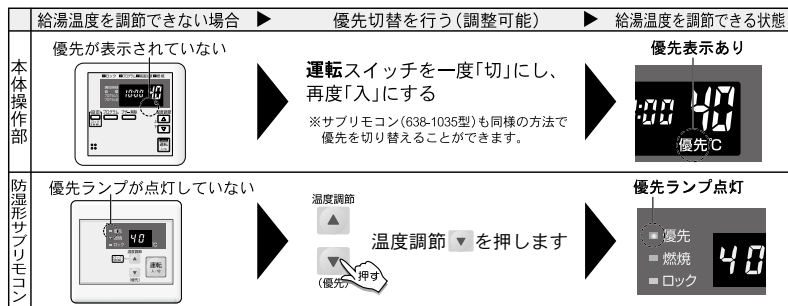
給湯温度を50°C以上に設定すると、本体操作部の高温注意ランプが点灯します。



- 給湯温度は運転スイッチを「切」にしても記憶しています。また、一度通電が止まって再通電した場合でも、設定した給湯温度を表示します。
- 表示している温度と給湯栓から出る湯温は、配管の長さや外気温等により必ずしも一致しません。表示温度は目安としてお考えください。

■優先切替について

給湯温度の調節を可能にするには「優先」もしくは優先ランプの点灯が必要です。この「優先」もしくは優先ランプの点灯を切り替えることを「優先切替」といいます。



警告 ●給湯・シャワーの使用中に優先を切替えない。お湯の温度が急変して、やけどのおそれがあります。

⚠️ ご注意ください

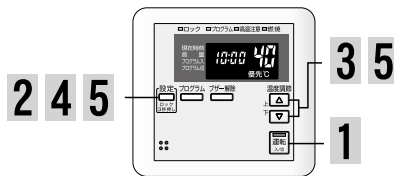
- 優先を切替えるときには、他の場所で使われていないことを確認してから切替えてください。



- 別売のサブリモコン(638-1035型)を設置している場合
 - ・本体操作部が優先のときは、サブリモコンも優先になります。
 - ・サブリモコンと本体操作部は連動しています。サブリモコンの運転スイッチを「入」にすると、サブリモコンの優先ランプと本体操作部の優先ランプが表示され、サブリモコンでも給湯温度の変更ができます。給湯温度は設定したリモコン側の温度になります。

プログラム運転を使う

プログラム運転は、毎日決まった時刻に自動で運転の「入」「切」をします。



■プログラム時刻の設定

操 作	操作後の画面	説 明
1 を押して「入」にします		
2 プログラム入の右側に< が表示するまで設定を押します		プログラム入時刻が点滅します。
3 上<△>または下<▽>を押して、プログラム入時刻を設定します	 【例】午前8:00に設定	
4 プログラム切の右側に< が表示するまで設定を押します		プログラム切時刻が点滅します。
5 上<△>または下<▽>を押して、プログラム切時刻を設定します	 【例】午後10:00に設定	
設定 を押す、もしくはしばらく押し操作がないと確定します		



- 設定したプログラム時刻は次回変更するまで記憶されますので毎回設定する必要はありません。
- プログラム時刻の設定は運転スイッチの「入」「切」に関係なく設定ができます。

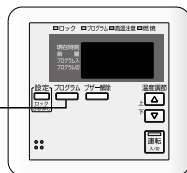
プログラム運転を使う

■プログラム運転をする

プログラム運転を行うときは、以下のことを確認してください。

- 現在時刻が合っているかを確認。(→P.9)
- プログラム運転の設定時刻を確認。
- ※プログラム時刻の変更はプログラム時刻の設定(→P.12)をご覧ください。

1



操作	操作後の画面	説明
<p>1 プログラム を押します</p> <p>設定したプログラム時刻になると自動的に運転の「入」/「切」を行います</p> <p>【プログラム運転「入」】</p> <p>プログラム「入」時刻になると運転「入」になります</p> <p>【プログラム運転「切」】</p> <p>プログラム「切」時刻になると運転「切」になります</p>	<p>●プログラム 高湿注意 燃焼</p> <p>現在時刻 音 量 プログラム入 プログラム切</p> <p>●プログラム 高湿注意 燃焼</p> <p>現在時刻 音 量 プログラム入 プログラム切</p> <p>8:00 優先 C</p> <p>●プログラム 高湿注意 燃焼</p> <p>現在時刻 音 量 プログラム入 プログラム切</p>	<p>●プログラムランプが点灯します。</p> <p>※プログラムランプを点灯した状態にしておけば、毎日同じ時間に運転の「入」/「切」を行います。</p> <p>●本体操作部では運転ランプと画面を表示します。</p> <p>●サブリモコン・防湿形サブリモコンでは給湯温度を表示します。</p> <p>●本体操作部では運転ランプと画面が消えます。</p> <p>●サブリモコン・防湿形サブリモコンでは給湯温度が消えます。</p>

メモ ●停電または電源プラグを抜いた状態が30分以上続いた場合には、プログラム運転が解除されます。再度 を押して設定し直してください。

プログラム運転「入」中に運転を停止したいときは

を押します。運転ランプが消灯し、運転を停止します。
プログラム運転の解除にはなりませんので、プログラム運転「入」中にもう一度 を押すとプログラム運転「入」の状態に戻ります。

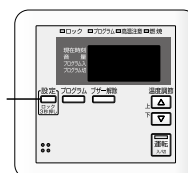
■プログラム運転の解除

操作	操作後の画面	説明
<p>1 プログラム を押します</p>	<p>●プログラム 高湿注意 燃焼</p> <p>現在時刻 音 量 プログラム入 プログラム切</p>	<p>●プログラムランプが消灯します。</p>

メモ ●プログラム運転「入」中に を押すと、プログラムランプが消えプログラム運転の解除となりますが、運転ランプは点灯したままで運転スイッチ「切」にはなりません。

ロック機能

設定 解除



設定 解除



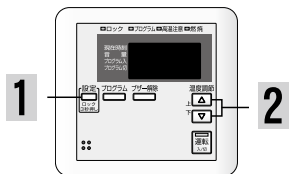
ロック機能の設定/解除は各リモコンで個別に行います。操作の方法は運転スイッチ「切」の状態の説明します。

■ロック機能の設定と解除

操作	操作後の画面	説明
<p>設定</p> <p>【本体操作部】</p> <p>設定 を“ピピッ”と鳴るまで3秒以上押し続けます</p> <p>【サブ・防湿形サブリモコン】</p> <p> を“ピピッ”と鳴るまで3秒以上押し続けます</p>	<p>●プログラム 高湿注意 燃焼</p> <p>現在時刻 音 量 プログラム入 プログラム切</p> <p>●優先 ●燃焼 ●ロック</p> <p>C</p>	<p>●ロックランプが点灯します。</p> <p>※ロック中はロック機能の解除以外のリモコン操作はできません。</p> <p>●ロックランプが点灯します。</p> <p>※ロック中はロック機能の解除以外のリモコン操作はできません。</p>
<p>解除</p> <p>【本体操作部】</p> <p>設定 を“ポポッ”と鳴るまで3秒以上押し続けます</p> <p>【サブ・防湿形サブリモコン】</p> <p> を“ポポッ”と鳴るまで3秒以上押し続けます</p>	<p>●プログラム 高湿注意 燃焼</p> <p>現在時刻 音 量 プログラム入 プログラム切</p> <p>●優先 ●燃焼 ●ロック</p> <p>C</p>	<p>●ロックランプが消灯します。</p> <p>●ロックランプが消灯します。</p>

メモ ●ロック機能の設定/解除は、運転スイッチの「入」/「切」に関係なく設定ができます。
●省電力機能(→P.15)で画面が消えているときに設定スイッチを3秒以上押し続けても、ロック機能の設定/解除は行えません。画面を表示した後、再度設定スイッチを3秒以上押し続けてください。

本体操作部のその他の機能



■ブザーの音量を変更する

本体操作部ではアラーム表示時のブザー音の音量を変更することができます。操作の方法は運転スイッチ「切」の状態の説明します。

操作	操作後の画面	説明
1 音量の右に「 ▲ 」が表示するまで 設定 を押します		音量が点滅します。サンプル音が流れますので、お好みの音量に設定してください。
2 ▲ または ▼ を押して、音量を設定します。設定後、しばらく押し操作がないと確定します 音量の目安 0(無音) 1(小) 2(中) 3(大)		

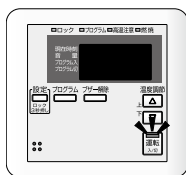
- 変更した内容は、次回変更するまで記憶されます。
- 音量の変更は、運転スイッチの「入」/「切」に関係なく設定ができます。
- 音量を無音に設定するとブザー音は流れません。
- スイッチやボタン操作時の音、警告音“ビビビビ”の音は調整できません。また、サブリモコンのブザー音の音量は調整できません。

■省電力機能について

5分以上スイッチ操作や給湯を使用しないときに、本体操作部の画面表示を消して電力の節約をします。



スイッチ操作や給湯使用が5分以上ない場合



ランプの点灯はそのままで、画面表示がすべて消えます。

⚠️ご注意ください

- 省電力機能で画面が消えている時にリモコンのスイッチを押すと、画面を表示します。このとき、押されたリモコンのスイッチの動作は、行われません。
- 省電力機能を解除することはできません。

冬期の凍結予防をするには

凍結を予防するための操作について説明します。



- 暖かい地域でも、機器や配管内の水が凍結して破損事故が起こることがあります。以下をお読みいただき、必要な処置をしてください。
- 凍結により機器や配管が損傷した場合の修理費は、保証期間内でも有料となります。

■凍結予防装置による方法

通常の寒さのとき(外気温-15℃程度まで)

機器の電源プラグは、抜かないでください

この機器には、気温が下がってくると自動的に機器内を保温する凍結予防ヒーターがついています。電源プラグを抜いたり分電盤のブレーカーを「切」にすると、凍結予防装置ははたらきません。

- ・凍結予防装置は、運転スイッチの「入」/「切」に関係なく作動します。
- ・給水・給湯配管は凍結する場合があります。配管は必ず保温材または電気ヒータを巻くなど地域に応じて処置をしてください。



寒波などで特に寒くなりそうなきは、給湯栓の水を流す方法または、機器の水を抜く方法で凍結予防をしてください。

■給湯栓の水を流す方法

この方法は機器本体だけでなく、給水・給湯配管やバルブ類および給湯栓の凍結予防に有効です。

操作	説明
1 を押して運転スイッチを「切」にします	必ず行います。
2 ガス栓を閉じます	
3 浴室の給湯栓を開け、1分間に400cc程度の水を流し続けます	流量が不安定なことがありますので、念のため約30分後にもう一度流量を確認してください。

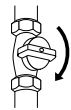
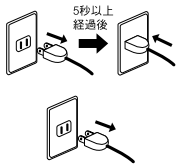
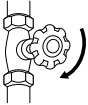
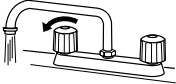
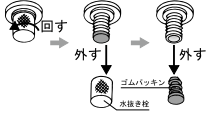
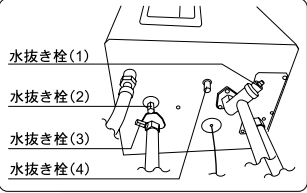
⓪ お願い ● 次の朝、お使いになるときは、給湯栓を開けて水が出ることを確認してから、運転スイッチを「入」にしてください



- 給湯栓の水を流す方法で凍結予防をしているときは、家の人に凍結予防のために水を流していることをお知らせください。水を止めると凍結します。
- 通水使用の禁止として、運転スイッチを切った状態で給湯栓を開けて水を出さないようにお願いをしていますが、凍結予防の場合は問題ありません。(→P.5)
- シングルレバー混合栓やサーモスタット混合栓をご利用の場合は、再使用時の給湯温度設定にご注意ください。

冬期の凍結予防をするには

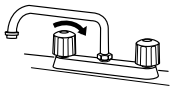
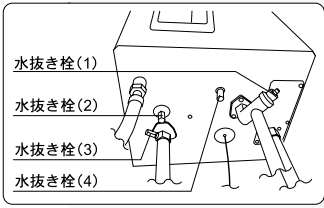
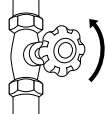


■機器の水を抜く方法 入居前や長期不在で分電盤のブレーカーを「切」にする場合や、電源プラグを抜く必要がある場合には、この方法で機器内の水を排水し凍結予防をします。

操 作	説 明
1 ガス栓を閉じます 	機器の下部にあります。
2 電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上経過後、電源プラグをコンセントに差し込みます 15秒経過後、再び電源プラグを抜きます 	
3 給水元栓を閉じます  すべての給湯栓を全開にします 	
4 水抜き栓(1)(2)(3)(4)を外します 水抜き栓(4)の外しかた  	
5 完全に排水したことを確認後、すべての水抜き栓を元通りに取り付けます	以上の操作で機器内の水は排水されます。次にお使いになるまでそのままにしておいてください。

お願い ●水抜きをするとき床などに水が流れては不都合な場所では、あらかじめ容器を用意して水を受けてください。

冬期の凍結予防をするには

■再使用するとき 機器内の水を排水したあと、しばらくして再度使用するときには次の操作をしてください。

操 作	説 明
1 水抜き栓(1)～(4)およびすべての給湯栓が閉じていることを確認します  	
2 給水元栓を開け、機器や配管より水漏れがないか確認します また、すべての給湯栓を開け、水が出ることも確認します 	給水元栓は機器の下部にあります。 水が出ることを確認したら、給湯栓を閉じます。
3 電源プラグを差し込みます 	コンセントは機器の周辺にあります。
4 ガス栓を開けます 	ガス栓は機器の下部にあります。
5 本体操作部の現在時刻を設定します(→P.9)	

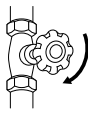
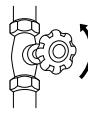
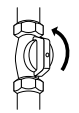
お願い ●再使用するとき、水抜き栓を元通りに確実に閉じてください。閉じかたが不十分だったり閉じ忘れたりすると、そこから水漏れします。

長くお使いいただくために

冬期の凍結予防をするには

■凍結したときは

凍結したときは給湯栓を開けても水は出てきません。解凍するまで待つて、次の操作により水が出ることを確認してから運転してください。

操 作	説 明
1 ガス栓を閉じます 	機器の下部にあります。
2 給水元栓を閉じます 	機器の下部にあります。 ※配管が破損していた場合の水漏れを防止する目的です。
3  を押して、運転スイッチを「切」にします	
4 ときどき給水元栓を開けて、給湯栓から水が出ることを確認します 水が出てくれば使用できます	給水元栓は、機器の下部にあります。
5 給水元栓を全開にし、ガス栓を開けます  	機器の下部にあります。
6  を押して、運転スイッチを「入」にします	

お願い ●給水・給湯配管が凍結すると配管や給湯栓が破損することがあります。解凍後は、水道メーターを見るなど水漏れていないことを確認してください。

長期使用製品安全点検制度

■長期使用製品安全点検制度について

この製品は消費生活用製品安全法(消安法)で指定された特定保守製品です。

●特定保守製品とは『消費生活用製品のうち、長期間の使用に伴い生ずる劣化(経年劣化)により安全上支障が生じ、一般消費者の生命または身体に対して特に重大な危害を及ぼすおそれが多いと認められる製品であって、使用状況等から見てその適切な保守を促進することが適当なもの(消安法第2条第4項)』として指定された製品です。

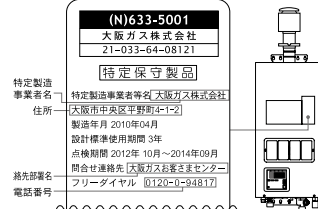
■法定点検(有料)について

特定保守製品は、経年劣化による重大事故を防止するために、製品ごとに設定された点検期間中に点検を受けることが製品の所有者の責務として求められています。(消安法第32条の14)この製品に表示してある点検期間になったら、忘れずに点検を受けてください。なお、法定点検後も機器を継続して使用する場合には、こまめに(年1回程度)点検を受けることがこの機器を安全にご使用いただくために必要となりますので、ご注意ください。

また、法定点検は、法定点検の基準に製品が適合しているかどうかを確認するものであって、その後の安全を担保するものではありません。

●この製品の点検期間は右図のように表示しています。

●この製品は設計標準使用期間3年の前6ヶ月、後1年6ヶ月の間を法定の点検期間として設定しています。
点検期間には忘れずに法定点検(有料)をご依頼ください。



■所有者登録について

特定保守製品の所有者は、この製品の製造事業者に法定の所有者登録をすることが求められています。(消安法第32条の8第1項および第2項)

製品に同梱している「所有者票」に記載している〈所有者登録の方法〉に従って、ご登録をお願いします。また、引越等して住所が変わった場合や所有者が変わった場合など、所有者登録の内容に変更が生じた場合は、速やかに登録内容の変更をお願いします。変更のご登録をしない場合は**点検通知が届きません**。所有者登録情報に関するお問い合わせは「**■法定点検の連絡先について**」(→P.21)をご覧ください。なお、ご登録いただいた所有者情報は、消安法、個人情報保護法および当社規定により、適切な安全対策の元に管理し、法定点検・リコール等製品安全に関するお知らせをする場合以外には使用いたしません。

所有者登録の方法

所有者票(返信はがき)で登録する

●添付の所有者票に必要事項をご記入の上、投函してください。



※所有者登録は聞き間違い等による誤登録を防ぐため、お電話での受付はしておりません。

法定点検通知について

●法定の所有者登録をいただいた方に、法定点検の通知をいたします。(消安法第32条の12)通知は当社から、はがきにて送付します。

●点検期間については、製品本体の表示、もしくは製品に同梱している「所有者票(お客様控え)」をご覧ください。

●法定点検に関するお問い合わせは、「**■法定点検の連絡先について**」(→P.21)をご覧ください。

長期使用製品安全点検制度

■この製品の設計標準使用期間について

この製品の設計標準使用期間は3年と算定しており、適切な点検をすることなく、この期間を超えてご使用になると、経年劣化による一酸化炭素中毒や火災等の事故に至るおそれがあります。

設計標準使用期間とは

標準的な使用条件(下記の「設計標準使用期間の算定の根拠」参照)の下で、適切な取り扱いで使用し、適切な維持管理が行われた場合に、安全上支障なく使用することができる標準的な期間として設計上設定される期間で、製品ごとに設定されるものです。(消安法第32条の3)無償保証期間とは異なります。

設計標準使用期間の算定の根拠

この製品の設計標準使用期間は、製造年月を始期とし、JGKAS A 201「業務用ガス瞬間湯沸器の標準使用条件及び標準加速モード並びにその試験条件」の「4 標準加速モード」に従って以下の標準使用条件で、耐久試験を行い、経年劣化により安全上支障が生ずるおそれが著しく少ないことを確認した時期を終期として設定しています。

標準使用条件			
使用形態	多頻度使用	長時間一定給湯(熱交換器結露)	
使用時間/日	10時間	5時間	
繰返しパターン	1分ON/1分OFF 300回/日	20分ON/5分OFF	12回/日
出湯温度/給水温度	60℃/15℃	37℃/24℃	
湯量	最大流量相当	全バーナーが最低燃焼の湯量相当	
電源電圧/周波数	100V(50Hz/60Hz)	使用日数/年	365日

⚠️ご注意ください

●上記の標準的な使用条件を超える使用頻度や異なる使用環境(高温・多湿・寒冷地・海岸近辺(塩害地域)・高地(海拔1,000m以上)・温泉水・井戸水・地下水使用など)などで使用した場合は、設計標準使用期間よりも早期に安全上支障を生じるおそれが多くなることが予想されますので、製品に表示している点検期間より早期の点検を実施してください。お客様ご自身が思い当たる場合や気になる点がある場合は下記にご連絡ください。

■法定点検の連絡先について

所有者登録情報の変更・法定点検に関するお問い合わせ・法定点検の点検作業のご依頼

大阪ガスお客さまセンター フリーダイヤル: 0120-0-94817 受付時間/(月~土): 9:00 ~ 19:00
(日・祝): 9:00 ~ 17:00

●点検費用はお客さまにご負担いただくこととなります。点検料金につきましては、大阪ガスお客さまセンターへお問い合わせください。また、点検の結果、整備・修理が必要となった場合は別途費用が発生します。

●法定点検は、大阪ガスまたは大阪ガスが委託した事業者が行います
また、ホームページ(<http://www.osakagas.co.jp/>)からもご確認いただけます。

■部品の保有期間について

この機器の部品の保有期間は以下の通りです。

部 品	保 有 期 間	部 品 内 容 (部 品 名)
点検に係わる整備用部品	7年	点検の結果必要となると見込まれる部品です バックイン・Oリング・点火プラグ・イグナイター・フレームロッド・ハイリミットスイッチ・温度ヒューズ・COセンサー・温度検出サーミスタ・給気フィルター
補修用性能部品	7年	機器の機能を維持するために必要となる部品です

点検のポイント・お手入れのしかた

■点検のポイント 安全に長くお使いいただくために、点検とお手入れは定期的に行いましょう。

次の12のポイントで点検してください。

- 1 機器および配管から水漏れはありませんか？
水漏れは、機器の故障だけでなくお隣や階下の方にも多大な迷惑をかけます。
- 2 機器および配管からガスの臭気がしませんか？
- 3 運転中に機器から異常音がしませんか？
- 4 機器の外観に異常は見られませんか？
- 5 機器のまわり、ダクトとの接続部のそばに燃えやすいものはありますか？ (→P.3)
- 6 ダクトとの接続部が外れていませんか？ (→P.2)
- 7 部屋の窓(給気口、排気口、小窓など)が物などでふさがっていませんか？ (→P.2)
- 8 排気フード部および排気筒の破損、外れ、詰まりはありませんか？ (→P.2)
- 9 給気フィルターにゴミ、ほこりが詰まっていますか？
- 10 給気フィルターの変形、破損はありませんか？
- 11 給気フィルターが機器に確実に装着されていますか？
- 12 給気フィルターが物などでふさがっていませんか？
- 13 燃焼中、ドレン水がドレン排水口からスムーズに排水していますか？



■お手入れのしかた

機器本体およびリモコンのお手入れ

- 汚れは、湿ったやわらかい布で軽くふき取ってください。
- シンナー・ベンジンなどは使わないでください。
変色・変形する場合があります。



■定期点検のおすすめ(有料)

- ご使用上支障がない場合でも、不慮の事故を防ぎ、安心してより長くご使用いただくために、年一回程度の定期点検をおすすめします。お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご相談ください。

⚠️警告 ●フロントカバーを外したり、本体操作部やリモコンを分解したりしない。

⚠️ご注意ください

- 機器本体のお手入れは、ガス栓を閉じ、電源プラグを抜き、機器が冷えてから行ってください。また、けがなどしないよう、指先には十分注意してください。
- 給湯栓の先端に泡沫器が内蔵されているものについては、ときどき内部のフィルターを掃除してください。
- 本体操作部、サブリモコンには水をかけないようにしてください。リモコンの内部には電気部品が入っていますので故障の原因となります。また、防湿形サブリモコンは防水タイプですが、故意に水をかけないでください。

- お願い ●洗剤およびシンナー、ベンジンなどではふかないでください。
●水圧の低い地域では泡沫器は使用しないでください。

点検のポイント・お手入れのしかた

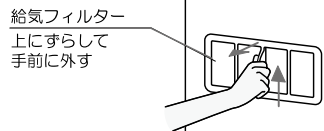
■給気フィルターの掃除(こまめに掃除)

給気フィルターはこまめに掃除してください。給気フィルターに油煙やほこりが詰まると、本体操作部にアラーム番号“051”(サブリモコン・防湿形サブリモコンには“05”)が点滅表示し、アラームブザーが鳴ります。アラームブザーの停止は、本体操作部またはサブリモコンのブザー停止スイッチを押して行ってください。

- 1** 運転スイッチを押して運転を「切」にします

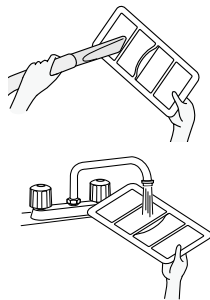


- 2** 上にずらして手前に引くとフィルターが外れます



- 3** ほこりやゴミを掃除機で吸い取るか、水洗いします
油汚れのひどいときは、台所用中性洗剤で洗ってください

※洗剤は、よく洗い流してください。



- 4** 元どおりに取り付けます

給気フィルターが濡れている場合は、よく乾かしてから取り付けてください。

運転スイッチを「入」にして、再使用してください



- !** ご注意ください
給気フィルターがきちんと装着されていないときは、機器を使用できません。
※運転スイッチを「入」にしたとき本体操作部にアラーム番号“201”が点滅します。
運転スイッチを「切」にして、再度装着し直してください。

! ご注意ください

●給気フィルターのお手入れの際には、けがなどしないよう、指先には十分注意してください。

お願い

- ベンジン・シンナー・みがき粉などでふいたり、液状殺虫剤や熱湯などをかけないでください。
- 給気フィルターを外したまま使用したり、濡れたまま取り付けて使用しないでください。故障の原因となります。
- 給気フィルターの掃除回数は使用場所により異なります。汚れてきたら掃除してください。
※給気フィルターが変形・破損したときには、お買い上げの販売店でお求めください。

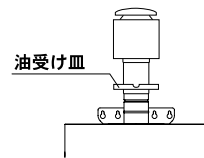
点検のポイント・お手入れのしかた

■油受け皿の掃除(月1回程度)

油受け皿は定期的に掃除してください。油煙やほこりで汚れたままにしておくと、機器の故障の原因になります。

※月1回程度を目安としますが、頻度は設置状況により異なります。

- 1** 運転スイッチを押して運転を「切」にします



- 2** 油受け皿を掃除します

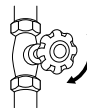
ほこりや油がたまっているときは布などでふき取ってください。

お願い ●排気フード本体の底板を外したり、フード内部のセンサーは外さないでください。外したりすると、排気が室内に漏れて一酸化炭素中毒の原因となります。

■給水口フィルターの掃除

給水口フィルターが詰まるとお湯の出が悪くなったり、お湯にならない場合があります。そのときは、次の要領で給水口フィルターを掃除してください。(特に新築などの場合)

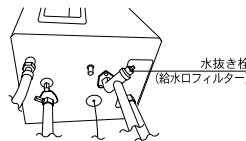
- 1** 給水元栓を閉じる



- 3** 歯ブラシなどで洗う



- 2** 給水接続口にある水抜き栓を外す



- 4** 元のように取り付ける

お願い ●給水口フィルターを外すと水が出ます。水が流れては不都合な場所では、あらかじめ容器を用意して水を受けてください。

■点検・お手入れ後の確認

点検・お手入れ後は、機器が正常に作動するか確認してください。

万一、異常な燃焼・臭気・音を感じたときは、使用を中止し、ガス栓を閉じてお買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。

故障かな?と思ったら

こんなとき

ここを調べてください

リモコンの画面に表示が出ない	省電力機能中ではありませんか (→P.15) 電源プラグがコンセントに差し込まれていませんか (→P.9) 停電していませんか (→P.5)
リモコンのスイッチを押しても操作できない	ロックランプが点灯していませんか (→P.14)
燃焼ランプが点灯しない お湯が出ない 運転しない	電源プラグがコンセントに差し込まれていませんか (→P.9) 停電していませんか (→P.5) ガス栓が全開になっていませんか (→P.9) 給水元栓が全開になっていませんか (→P.9) 断水していませんか (→P.5) 給湯栓が十分開いていますか (→P.10) 給水口フィルターが詰まっていますか (→P.24) 凍結していませんか (→P.19) ガスメーター(マイコンメーター)がガスを遮断していませんか LP ガスの場合、ガスがなくなっていますか 上記を確認後 リセット操作
燃焼ランプが点滅した	ガス栓が全開になっていませんか (→P.9) 給水元栓が全開になっていませんか (→P.9) 給水口フィルターが詰まっていますか (→P.24) 給気フィルターは正しく装着されていますか (→P.23) 上記を確認後 リセット操作
高温のお湯が出ない	温度調節は適切ですか (→P.11) ガス栓が全開になっていませんか (→P.9) シングルレバー混合栓やサーモスタッド混合栓を使用し、高温のお湯が出ない場合は、リモコンの給湯温度を最高温に設定してください
低温のお湯が出ない	温度調節は適切ですか (→P.11) 給湯栓が十分開いていますか (→P.10) 給水口フィルターが詰まっていますか (→P.24) 給水元栓が全開になっていませんか (→P.9)
使用中に消火した	レンジフードや換気扇が強すぎて給気不足になったり、ストーブなどの長時間使用で不完全燃焼すると自動的に消火します。レンジフードを弱にするか、換気口を開けて換気をしてください。
運転中に機械から異常音が聞こえる	点検依頼をしてください

それでもわからないときはアフターサービスをお申し付けください。

故障かな?と思ったら

■こんなときは故障ではありません

現象	点検項目
給湯栓を絞りすぎて水になった	この機器は通水量が約3.0L/分以下になったときには、消火します。
夏期水温が高いとき低温のお湯が出ない	夏期など、水温が高いときに低温のお湯を少量得ようとする、湯温が高くなります。給湯栓をもっと開けて出湯量を多くすれば湯温は安定します。
冬期水温が低いとき高温のお湯が出ない	冬期など、水温が低いときに高温のお湯を得ようとするときは、出湯量を少なめにして使用してください。出湯量を多くすると熱いお湯が出ない場合があります。
給湯栓を開けてもすぐにお湯が出てこない	機器から給湯栓までは距離がありますので、お湯が出てくるまでには少し時間がかかります。
給湯使用中にお湯の量が変わる	お湯を使用中、他の場所でお湯を使用したりすると、お湯の量が減る場合があります。
給湯栓を開けたときお湯の量が変動する	湯温を安定させるために、自動的に湯量調整をしています。すぐに湯量は安定します。
お湯が白く濁って見える	これは水中に溶け込んでいた空気が熱せられ、大気圧まで急速に減圧されることで細かい泡となって出てくる現象です。ビール・サイダー等の泡と似た現象であり汚濁とは違って、まったく無害なものです。
給湯使用中や給湯終了後しばらくの間、コトコトと音がする	お湯の温度を安定させるためにモーターを動かしているときに発生している音で、故障ではありません。
出湯停止後しばらく燃焼ファンの回転音がする	再使用時の点火をより早くするため、しばらくの間は回転しています。
給湯栓を閉じると、水抜き栓から一瞬水が漏れる	水抜き栓がしっかり閉じていないと水漏れします。給水側の水抜き栓は、過圧防止安全装置をかねています。圧力を逃すために水が出る場合があります。
時計表示が合っていない	停電や電源プラグをコンセントから抜いた状態が30分以上続いた場合の再通電時には、時刻表示が「1:00」の初期状態に戻りますので、時刻の再設定をしてください。(→P.9)

以上のことをお調べのうえ、なお異常のあるときは
お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。

長くお使いいただくために

故障かな?と思ったら

■アラーム表示について

- 機器に不具合が生じたとき、その原因に応じてアラーム番号の点滅表示とブザー（防湿形サブリモコンはブザーが鳴りません）でお知らせし、自動的に運転を停止します。
- ブザーは本体操作部の **リセット** またはサブリモコンの **解除** を押して解除します。（アラーム番号の点滅表示は解除されません）
- アラーム番号が表示点滅したときは不具合の内容と表示されているアラーム番号をお買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。

アラーム番号	原因	処置	アラーム番号	原因	処置
031	未対応ガス種選択	修理を依頼する	510	元ガス電磁弁異常	修理を依頼する
051	給気フィルター詰まり・装着不良	給気フィルターを清掃後、正しく装着(→P.23)	511	給湯ガス電磁弁異常	
111	点火不良	ガス栓が全開であることを確認後(リセット操作)	541	給湯弁異常	
121	失火	それでもアラーム番号がでるときは、修理を依頼する	611	ファン回転異常	
141	元ガス電磁弁駆動回路故障	修理を依頼する	651	水制御弁異常	
311	出湯温サーミスタ断線・短絡		661	パイパス水制御弁異常	
321	入水温サーミスタ断線・短絡		701	電装基板異常	
331	混合温サーミスタ断線・短絡		711	ガス電磁弁駆動回路異常	
341	排気温サーミスタ断線・短絡		721	プリポストチェック異常	
351	排気あふれサーミスタ断線・短絡		741	本体操作部通信異常	
381	COセンサ異常劣化		751	防湿形サブリモコン通信異常	
	機器の燃費累計時間が8,000時間を超えました。しばらくは使用できません(アラームは消えませんが、異常燃焼検出装置の劣化のため早めに修理を依頼する。10,000時間経過後は機器を使用できません)	941	排気温度異常検出	排気ダクトの排気ファンが停止しているときは運転(回転)させてください。運転スイッチを「切」にし、1分程度通してから再度使用してください。	
		951	排気あふれ検出		
		921	中和器寿命		
		991	燃焼異常装置作動	修理を依頼する	

リセット操作 **リセット** または **運転** を一度「切」にし、5秒以上経過してから **リセット** または **運転** を「入」にする。

【本体操作部】

アラーム番号の点滅表示とブザーが鳴ります。ブザーは **リセット** を押して解除します。



【本体操作部】

【サブリモコン・防湿形サブリモコン】

簡易表示のため、アラーム番号の上位2桁を点滅表示します。また、サブリモコンではブザーが鳴ります。ブザーは **解除** を押して解除します。



【サブリモコン】

【防湿形サブリモコン】

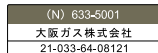
❗ご注意ください

- アラーム番号“921”が表示されたときは、中和器の交換が必要ですのでお買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへ修理を依頼してください。機器はしばらく使用できますが、リモコンのアラームは点滅したままです。そのまま使用を続けると、機器は停止して使用できなくなります。
- アラーム番号“111”・“121”が表示されたときは、給湯栓を閉じることにより、アラームが解除される場合があります。

アフターサービスについて

サービスを依頼されるときは

- 「故障かな?と思ったら」(→P.25～27)をご確認ください。それでも直らない場合、あるいはご不明の場合にはご自分で修理なさらないで、お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。
- アフターサービスをお申し付の際は、次のことをお知らせください。
 - (1)ご氏名・ご住所・電話番号・道順(付近の目印等)
 - (2)型番: 633-5001型
ガスの種類: 13A
(右のようなラベルを機器前面に貼付してあります(→P.1))
 - (3)現象(故障または異常内容、アラーム番号などできるだけ詳しく)
 - (4)訪問ご希望日



転居または機器を移設される場合

- ガスの種類が、異なる地域へ転居される場合は、調整・改造の必要があります。お買い上げの販売店、または転居先のガス会社へご相談ください。
- 増改築などのため機器を移設される場合、工事には専門の技術が必要となりますので、必ずお買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへご連絡ください。
- 設置場所の選定にあたっては、運転音や振動が大きく伝わらないような場所をお選びください。
- 転居、移設にともなう調整や工事の費用は、保証期間内でも有料となります。

保証について

- この取扱説明書の裏表紙が保証書になっています。保証期間・保証内容等をご確認のうえ、大切に保管してください。
- 保証書を紛失されますと、保証期間内であっても修理費をいただくことがありますので、大切に保管してください。
- 保証期間経過後の故障修理については、修理により製品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理いたします。

アフターサービス等についてわからないとき

- お買い上げの販売店、または最寄りの大阪ガスへお問い合わせください。

長期間使用しない場合

- 長期間使用しない場合は次の操作をしてください。
 - (1) ガス栓を閉じます。
 - (2) 給水元栓を閉じます。
 - (3) 機器の水抜きを行います。(→P.17)
 - (4) 電源プラグを抜きます。

補修用性能部品の保有期間について

- この製品の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の保有期間は製造打切り後7年です。

仕様一覧

〔仕様表〕

項	目	内容
型	番	633-5001型
型	式	GS-160GE-1
外形寸法(mm)/質量(kg)		幅350×奥行300×高さ700/29
種類	給湯方式	先止め式
設置方式		屋内設置壁掛形
点火方式		AC100V連続放電式(ダイレクト着火)
使用水圧		100～800kPa(1.0～8.0kgf/cm ²)
最低作動水圧		10kPa(0.1kgf/cm ²)
接続	ガス	15A(R1/2)オネジ
	給水	15A(R1/2)オネジ
	給湯	15A(R1/2)オネジ
電気関係	電源	AC100V(50/60Hz)
	消費電力	54W
	定格凍結予防時	143W
電源コード		VCT(2心)機外長2.0m
安全装置	送風検知装置(回転数検知方式)	過圧防止安全装置(スプリング式)
	漏電安全装置(漏電リレー)	誘導電保護装置(サージアブソーバ)
	凍結予防装置(電気ヒータ)	空だき防止装置(水量センサ)
	排気温度異常検出装置(サーミスタ)	空だき安全装置(ハイメタル式)
	排気あふれ検出装置(サーミスタ)	異常燃焼検出装置(COセンサ)
	立消え安全装置(フレームロッド)	過熱防止装置(温度ヒューズ)
付属品		排気フード部・アース線・壁固定金具一式・水抜きホース
別売品		サブリモコン・防湿形サブリモコン・リモコンコード

〔能力表〕

使用ガス 使用ガスグループ	1時間あたりのガス消費量	出湯能力(最大時)(ℓ/min)		ガス接続
		水温+25℃上昇	水温+40℃上昇	
都市ガス 13A	30.2kW{26,000kcal/h}	16.0	10.0	15A(R1/2)

◎ガス: JISに規定する標準ガス・標準圧力のとき。

◎出湯能力は、水圧200kPa(2.0kgf/cm²)のときで、温度を高めめに設定し、水と混合させることにより可能となる最大流量の計算値をいいます。

◎本仕様は改良のため、お知らせせずに変更することがあります。